

1) 参加団体名 和歌山大学宇宙開発プロジェクト(WSP)

2) 参加メンバー名

・能代メンバー

B4 塩川貴之 B2 井上慶祐 倉本将平 糸満友紀子 B1 讃岐英明 高田政裕 上原楽

・製作メンバー

能代まで行ったメンバーと B2 比嘉佑樹 B1 藤本大海



3) 目標としたこと

・ロケット

打ちあがる ○

解放機構の動作 ×

回収 ○

・can-sat

GPSの動作 △

制御データ取得 ×

サーボモータの動作 ○

4) 苦勞したこと、工夫したこと

初めてのロケットの製作だったので解放機構の仕組みをどうするかなどに悩まされたがボディーチューブを二重にする事で思ったように動作するものが出来た。

能代湿原でのロケットの回収には大変苦勞した。

缶サットの製作は2度目だが、データを残すことを今まで行っていなかった初めての試みだがSDカードに保存することにした。

5) 結果と感想・反省・今後の抱負など

ロケット部門

- 1回目 失敗（フィンがとれて、開放機構が動作しなかった）
- 2回目 失敗（開放するのが早すぎた）

フライバック部門

- 1回目 棄権（バッテリー接触不良）
- 2回目 失敗（制御記録が撮れなかった）

今回、能代宇宙イベントロケット部門・フライバック部門ともに初参加ということで、自分達の製作した物の成果を見る良い機会になった。

今回の反省点を改善していくことで、次回の能代イベントでは良い結果を残せるように努力する。

スケジュール通りに進めなかったため、前日色々と問題が発生した。

今後はロケットでは、安定した飛行と開放機構の確実な動作を目標とする。

缶サットでは、確実にデータの取得をする事を目標とする。

